

【概要】

2014 年度 民間住宅ローン利用者の実態調査 【民間住宅ローン利用予定者編】(第2回)

I 調査の概要

今後5年以内に、住宅を取得する計画があり、かつ、民間住宅ローンを利用する予定の方を対象にして、住宅取得に向けた意識や行動、利用予定の住宅ローンの金利タイプなどについて、インターネットによるアンケート調査を2014年10月に実施し、その結果を取りまとめたものです。
(回答数:1,016 件)

II 調査結果の主なポイント

※<>は、本調査結果の詳細資料中の該当ページ

1 希望する住宅ローンの金利タイプは「全期間固定型」及び「変動型」が増加<p.2>

- ・「全期間固定型」は34.3%(前回調査:32.3%)、「変動型」は29.5%(前回調査:24.8%)と増加した。
- ・一方、「固定期間選択型」の希望割合は36.2%(前回調査:42.9%)と低下した。

2 今後1年間の住宅ローンの金利見通しは「現状よりも上昇する」が低下し、「ほとんど変わらない」が増加<p.3>

- ・「現状よりも上昇する」と思う割合は全体で36.8%(前回調査:41.7%)と低下した一方、「ほとんど変わらない」と思う割合は全体で41.3%(前回調査:38.0%)と増加。この傾向は全ての金利タイプにおいて同様であった。
- ・また、「現状よりも低下する」と思う割合は、全体で5.6%(前回調査:4.9%)と少ない状況が続いている。

3 住宅の買い時意識が向上<p.6>

- ・今(今後1年程度)は住宅取得のチャンス(買い時)だと思う方の割合は、46.3%(前回調査:42.2%)に増加している。
- ・住宅取得のチャンス(買い時)だと思う理由は、「住宅ローン金利が低水準だから」、「消費税率引上げ前だから」が前回調査から増加している。